

## 自然体験活動ボランティア養成研修

〔主催〕国立諫早青少年自然の家

〔期日〕令和4年6月18日(土)～19日(日)

〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕高校生1名、大学生一般19名 計20名(男性8名、女性12名)

〔講師〕ガールスカウト長崎県連盟 高橋 純子、吉岡 由美子

〔担当職員〕葛島 隆文、貞方 貴衣、稲原 諒馬

### 1)趣旨

青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高める一助とする。

### 2)目標

「自然の家にまた来て子供たちと一緒に活動したい」と感じてもらうこと。

### 3)プログラム

1日目		2日目	
10:00	受付、開講式 [写真①]	8:20	<u>【説明】登録などはどうしたらいいの？</u> (青少年教育施設における ボランティア活動② 30分)
10:30	<u>【講義・実習】自然の中に飛び込もう！</u> ①	9:00	<u>【講義】なんで自然体験が大事なの？</u> [写真④] (青少年教育 90分)
12:15	(ボランティア活動の技術 60分) <u>【講義・実習】自然の中に飛び込もう！</u> ②	10:40	<u>【講義】諫早自然の家ってなに？</u> (青少年教育施設の現状と運営 60分)
15:25	[写真②] (ボランティア活動の技術 180分) <u>【講義・実習】応急手当を知ろう①</u>	13:10	<u>【説明】どうやったら活動に参加できるの？</u> (青少年教育施設における ボランティア活動② 30分)
18:15	(自然体験活動の安全管理① 90分) [写真③]	13:50	<u>【講義】活動時の心構えについて</u> [写真⑤]
19:45	<u>【講義・実習】応急手当を知ろう②</u> (自然体験活動の安全管理② 90分) <u>【説明】どんなボランティア活動ができるの？</u>	15:15	(ボランティア活動の意義 90分) 閉講式 [写真⑥]
21:00	(青少年教育施設における ボランティア活動① 60分) 入浴・就寝		

#### 4)事業展開

##### ① 開講



名前を覚えるゲームやじゃんけん等、仲間づくりを行いました。ボランティア経験や学年、性別に関係なく活動することができ、安心して活動に取り組むことができる雰囲気になりました。

##### ③ 応急手当



ガールスカウト連盟より講師を迎え、普通救命講習Ⅰの講義と実技を行いました。胸骨圧迫や人工呼吸など自然体験活動を想定しながら手技を学ぶことができました。

##### ⑤ ふりかえり



しるらないカードを使って研修をふりかえりました。カードを使うことで参加者は意見を述べやすくなり、沢山の発言が聞かれました。

##### ② 野外活動



オリエンテーリングを行いました。フィールドの安全管理を徹底し、全員が無事にゴールすることができました。途中チームに課題を与え解決することでチームの結束力を高めることができました。

##### ④ 講義



自然体験活動の必要性やボランティア活動の現状などについて講義を行いました。班ごとに考えを視覚化して発表することで、意見を共有しながら講義をすすめることができました。

##### ⑥ 閉講



ボランティア活動への参加意欲を再確認し、最後に全員でボランティア登録や活動までの流れを説明し閉講しました。

## 5) 評価

### ① アンケート結果

満足	やや満足	やや不満	不満
95%	5%	0%	0%

### ② 参加者の声(アンケートから一部抜粋)

- ・積極性や協調性などボランティア活動を行ううえで必要なことを学ぶことができた。
- ・体験談からより深くボランティアを知ることができた。
- ・ふりかえりの仕方がとてもユニークでやる気につながった。

## 6) 成果と課題

### ① 成果

- ・ふりかえりを多く行ったことで、「学びを共有して次につなげることができる」など、多くの研修において学びについて記載があった。
- ・新規受講者全員がボランティア登録を行うことができ、今後の活動につなげることができた。
- ・長崎純心大学のサークル説明会に参加し、研修の広報を行うことができ、主に大学1年生の参加者を増やすことができた。
- ・普通救命講習Ⅰを実施したことで、研修受講者全員が資格に合格し修了書を交付することができた。

### (2) 課題

- ・コロナ感染の恐れがあるため、インターンシップ前2週間は、大学外での活動が制限されキャンセルがあった。
- ・大学の前期テストを心配する声が多く、来年度は1週間前の実施が望ましい。
  - ・普通救命講習Ⅰの実習では、消防署からの講師派遣がコロナ感染拡大防止により実施不可となった。講習を行うにあたり、応急手当普及員相当の資格が必要であり早めに講師を選定していかなければならない。
- ・各大学により研修における参加条件が異なるので、年度当初に確認が必要であった。



目標4 質の高い教育をみんなに  
ボランティアの意義を理解し、多くの子供と接するきっかけを作ることができます。



目標16 平和と公正をすべての人に  
先輩ボランティアの意思を引継ぎ、自主的に活動を選択することができます。